

## 受けていますか？ がん検診

日本人の2人に1人が、  
がんにかかります。とこ  
ろが、余市町国保加入者  
のうち約8割の人が、が  
ん検診を受けていません

日本人のおよそ2人に1人  
が一生のうちに「がん」と診  
断され、3人に1人ががんで  
亡くなっています。

余市町でも、毎年1000人  
前後の方ががんにより命を落  
としていきます。

その一方で、余市町国保の  
がん検診の受診率は約20%  
と低い状態であり、国全体で  
見ても、30%程度の受診率  
です。国際的にみると、欧米  
が50〜80%の受診率であ  
るのに対し、余市町国保加入  
者や日本全体のがん検診受診  
率は際立って低い状態にあ  
ります。

### がん検診の対象者

がん検診は、症状が出る前  
の早期がんを発見し、治療に  
つなげることを重要な目的と  
しています。そのため、対象

者は「自覚症状の無い、健康  
な人」です。

一方、自覚症状のある人が  
病院で受ける検査は「診療」  
です。

大切な人、自分のために  
もがん検診を受けてくだ  
さい

がんの早期発見・早期治療  
には、なによりもがん検診が  
欠かせません。自覚症状の有  
無に頼らず、適切な受診間隔  
で、がん検診を受診しましょ  
う。なお、症状がある場合は、  
検診ではなく、すみやかに医  
療機関を受診されることをお  
勧めします。

### 検診の有効性

余市町では「胃がん」「大腸  
がん」「肺がん」「子宮頸がん」  
「乳がん」の5つのがん検診  
を実施しています。

これらの検診は「がんを的確  
に発見することができ、結果  
としてがんで亡くなる方を減  
らすことができる」と科学的  
に証明されています（表1の  
とおり。推奨グレードB以上  
が、がん検診として有効と認  
められています）。

表1

「有効性評価に基づくがん検診ガイドライン」より引用・改変

		方法	受診間隔	推奨グレード
胃	50歳以上※1	胃内視鏡検査	2年に1回※1	B
		胃X線（バリウム）検査		B
大腸	40歳以上	免疫学的便潜血検査※2	毎年	A
肺	40歳以上	非高危険群に対する胸部X線検査、及び高危険群に対する胸部X線検査と喀痰細胞診併用法※3	毎年	B
子宮頸部	20歳以上	細胞診（従来法）	2年に1回	B
		細胞診（液状検体法）		B
乳	40歳～74歳	マンモグラフィ単独法	2年に1回	B

#### 【推奨グレード】

A 死亡率減少効果を示す十分な証拠があるので、実施することを強く勧めます。

B 死亡率減少効果を示す相応な証拠があるので、実施することを勧めます。

※1 胃部X線検査については、当面の間、40歳以上の方へ、年1回実施しても差し支えがないとされています。

※2 化学法に比べて免疫法は感度・特異度ともに同等以上で、受診者の食事・薬制限を必要としないことから便潜血検査は免疫法が望ましいです。

※3 死亡率減少効果を認めるのは、二重読影、比較読影などを含む標準的な方法を行った場合に限定されます。標準的な方法が行われていない場合には、死亡率減少効果の根拠があるとは言えず、肺がん検診としては勧められません。また、事前に不利益に関する十分な説明が必要です。